

Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0023 福岡市中央区警固
2-1-17 ハイツみかげ803号室
TEL 092 (731) 2372
FAX 092 (731) 2373

No.124

2015年7月1日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



表紙絵 ハッダ村の三兄弟／画・甲斐大策

戦や目先の利に依らずとも多くの恵みが約束されている 2014年度現地事業報告	中村 哲
2014年度会計報告	ペシャワール会事務局
会長退任のご挨拶	後藤哲也
中村哲医師の活動は続きます	村上 優
PMSで働くことは私にとって喜びです	ザミールグル
結核対策プログラムから検査技師としてスタート	サイドマズード
7年ぶりのジャララバード	鈴木祐治
アフガニスタンの農村復興開発大臣を迎えて	徳永哲也
●カラー特集 PMSの頼もしい現地スタッフ①	

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

戦^{いくさ}や目先の利^よに依らずとも 多くの恵みが約束されている

2014年度現地事業報告

欧米では預言者を揶揄することが流行り、それが表現の自由であるとされました。世界全体が、露わな暴力主義と排外主義の毒に侵されて行くように思われました。利権を主張して弱者を圧するのが当然のように言われ始めたのです。このような世界をためらいつつ歩んできた日本もまた、良心の誇りを捨て、人間の気品を失い、同様に愚かな時流に乗ろうとしているように思えます。先は見えています。アフガニスタン破壊した同盟者にならぬことを願うばかりです。

PMS 総院長／ペシャワール会現地代表 中村 哲

二〇一四年度を振り返って

「緑の大地計画」が立案されたのが確か二〇〇二年でした。当時「アフガン復興支援」で世界中が沸いていましたが、私たちの訴え続ける干ばつと飢餓はあまり重視されなかったと覚えています。

二〇一四年十二月、破壊と大混乱を残して欧米軍が去っていききました。あの軍事介入が何だったのか、「対テロ戦争」とは何であったのか、心穏やかにはなれません。「テロとの戦い」と言いきえすれば何でも正当化されるような狂気が、この数十年の世界を支配してきました。実際アフガニスタンでは、異を唱える者がテロリストの烙印を押され、容赦なく抹殺されていきました。その多くが国際テロ組織とは無関係な、弱い立場の人々でした。無差別爆撃による膨大な犠牲は、「二次被害」と呼ばれました。

イスラム教徒に対する偏見が意図的にあおられ、人々の間に多くの敵対が作り出されました。病的な残虐行為や拷問は日常でした。だが、欧米軍兵士もまた犠牲者でした。その多くは貧しい階層の出身で、社会的事情で志願し、半ば駆り出された人々でした。少しでも良心を持つ者の一部は、自



カシコート竣工式で州政府主要閣僚からターバンを贈られた中村医師。ミランに着工式も同時に行われた（2014年10月14日）

殺に追い込まれました。

これが現地で見た「テロとの戦い」でした。細々とでも保たれてきた人間の英知とモラルは、これによって一挙に後退しました。欧米では預言者を揶揄することが流行り、それが表現の自由であるとされました。世界全体が、露わな暴力主義と排外主義の毒に侵されて行くように思われました。利権を主張して弱者を圧するのが当然のように言われ始めたのです。

このような世界をためらいつつ歩んでき



季節外れの大洪水。水門左側は護岸壁が洗掘され蛇籠壁のみが残ったが村への洪水流入は防がれた。ベスード第II取水門。2015年2月25日

た日本もまた、良心の誇りを捨て、人間の気品を失い、同様に愚かな時流に乗りうとしていくように思えます。先は見えていません。アフガニスタンを破壊した同盟者にならぬことを願うばかりです。

しかし、現地事業のおかげで垣間見える世界は、全く逆のものです。少し目を開けば、戦や目先の利に依らずとも、多くの恵みが約束されていることが解るからです。

今、次の段階への飛躍に当たり、立場を

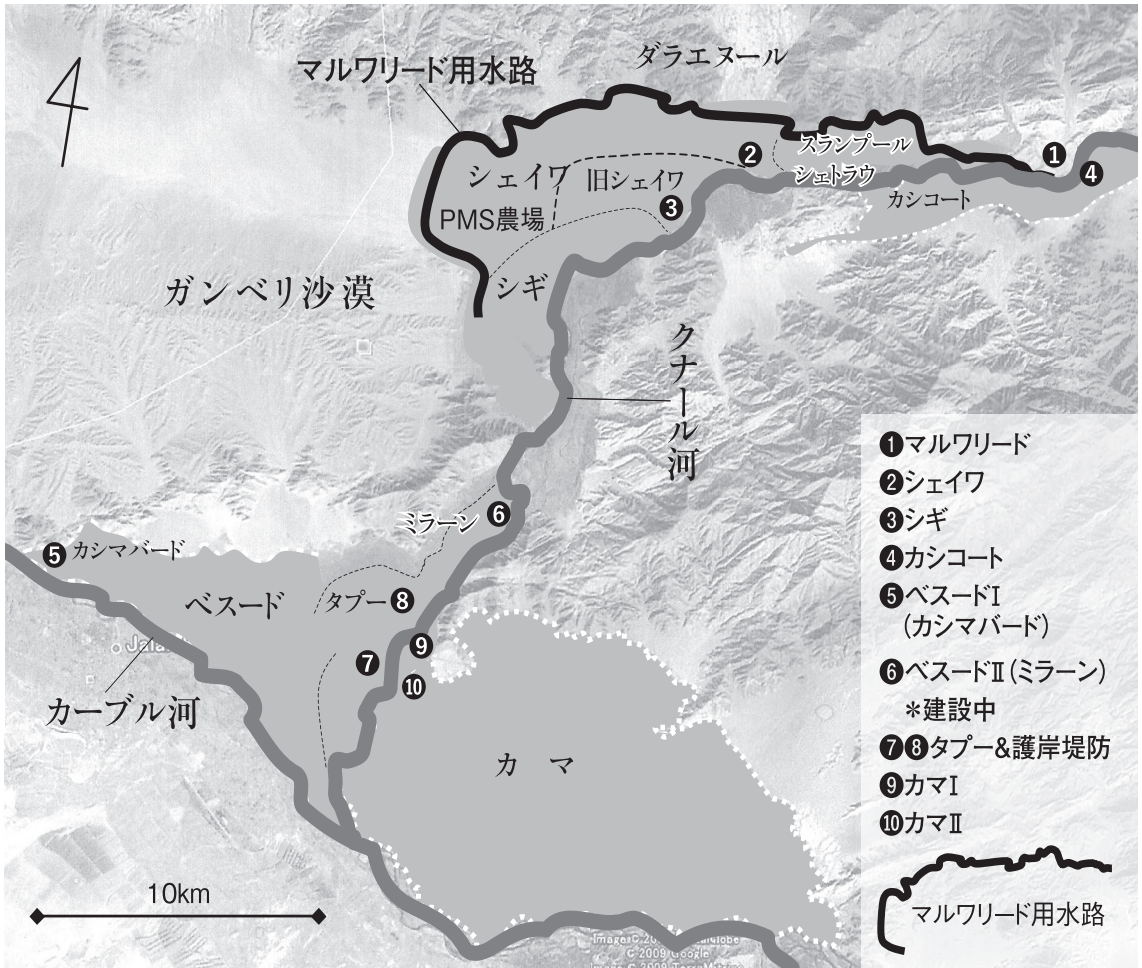


図1 PMSによる事業位置(2015年4月現在) ※番号は6ページ別表2と対応



ベスード第I取水門—水門に嵌められた堰板でカブール河水深3m以上の洪水流入を許していない。2015年2月25日

超えて実に多くの人々が協力しています。ここに希望と平和の基礎を見るからです。先は長い道程ですが、このオアシスこそ、飢餓に苦しむ人々だけでなく、私たち自身をも励ます力であることを訴え、変わらぬ協力に感謝いたします。

二〇一四年度の概況

不安定な気候と災害

二〇一四年度もまた、不安定な気候に悩

まされた。今回は、クナール河よりも比較的に安定したカブール河本川流域で、洪水が多発した。二〇一四年二月〜三月にかけての遅い降雪は、急速な雪解けで各地に雪崩を発生させ、カブール河の流域各地で氾濫した。翌二〇一五年二月には再び遅い降雪・降雨があり、二月下旬、真冬にもかかわらず、記録的な水位がジャラバードを襲った。

ベスード第I堰の取水口付近も直撃され、流域(約二五〇〇畝)の浸水が危惧されたが、取水門は持ちこたえ、惨事を免れた。洪水はスピングル南麓でも猛威をふるい、ソルフロッド川が氾濫した。

だが、これによって大河南川沿いの取水口と護岸の重要性が改めて痛感された。農地の荒廃は治まる気配なく、農村から叩き出された失業者で大都市があふれている。

二〇一四年秋、WFP(世界食糧計画)らの国際団体が「七六〇万人が飢餓線上」と伝えたが、大きな関心を集めず、戦争と政情だけが徒らに伝えられている。

外国軍撤退と総選挙・無政府状態

大統領選挙をめぐる混戦が続いた。二〇一四年四月に始まった総選挙は、半年以上をかけて一応の着着を見た。ガニ氏とア

ブドゥラ氏との決選投票となったが、ガニ氏優勢と伝えられるや、対立候補が不正を申し立て、国家分裂の危機がさやかれた。国連の選挙管理委員会は投票結果を公表せず、結局、米国らの「仲介」で事実上の「混合内閣」となった。旧政権の利権体質の一部が温存され、組閣の遅延で権力の空白が生まれ、治安はいっそう悪化した。

欧米軍は二〇一四年十二月、正式に「戦闘任務終了」を伝えて撤収したものの、米軍は約一万人の将兵を「支援」部隊として駐留させている。組閣を終えたのは、二〇一五年春のことである。「初の総選挙」に希望を寄せた大方のアフガン国民は、深い失望に陥った。

欧米軍の撤退と前後して、勢力をふるい始めたのが「イスラム国」(以下IS)である。既に二〇〇八年前後からグアンタナモ収容所出身者を中心とする「バキスタン・タリバン運動(TTP)」が活発となり、各地で混乱が大きくなっていった。二〇一四年、TTPによる学校爆破で多数の学童が死亡すると、旧タリバン(アフガニスタン)勢力はこれを非難、両者間で衝突が起きた。過激化したTTPの一部がISを支持、

二〇一五年五月、アフガン旧タリバン勢力と軍事衝突し、多数の犠牲が出た。国境沿

いの地区では米軍による無人機攻撃も続き、情勢はいよいよ混乱の度を深めている。

PMS事業の概況

カシコートIIマルワリード連続堰建設は

二〇一四年九月に正式に完工、ベスード第II堰（ミラーン）が十月に着工した。

ガンベリ沙漠開拓も次第に充実し、農業部を発足、食糧増産態勢に入った。

だが、依然として作業地の周辺は食糧難が続いている。アフガン新政権下で「飢饉対策と水利事業の重要性」が漸く認識されるようになり、PMSと連携し、将来に向けて布石が打たれようとしている。

1. 医療事業

一四年度の診療内容は別表の通り（別表1）。

大方の国際団体が撤退する中、ダラエヌール郡で重きをなしている。

2. 灌漑事業

主な工事は別表2の通り。一四年度は将来の広域展開へ向け、準備段階に入ったと認識、事業評価と技術の体系化が進められた。

二〇〇二年に立案された「緑の大地計画」

は、多少の変更はあるが二〇二〇年までに予定地域をカバーし、安定灌漑面積一六、五〇〇畝、人口六五万人の生活を保障するモデル・ケースとなる見通しがつきかけている。

アフガン全国の耕地は三六〇万畝で、そのうち灌漑地はわずか五〇数%といわれる。一四年度は、アフガン政府やJICA（日本国際協力機構）とも協力し、大規模な広域展開が狙上へのぼった。

◎カシコートIIマルワリード連続堰

連続堰は、既に完成していたが、洪水期の観察を経て、最後の追加工事を行い、二〇一四年十月、竣工式を行った。堰長五〇五m、堰幅五〇〜一二〇m、

石張り堰の総面積は約二万五千²m²、これによって技術的に完成度の高いものとなった。

それ以上に意義があったのは、職員・作業員たちの自信と矜持であ

る。難攻不落と思えた巨大な暴れ川から、安定した取水が可能であることを地域に印象付け、希望を与えるものであった。堰、取水門、急傾斜主水路、沈砂池という一連の取水設備（PMS方式）が、ほぼ地域に定着したと思われる。

◎シギ地域の安定灌漑

シギ地域は半沙漠の荒野と湿地が混在し、面積の割に生産性に乏しかった。

PMSでは二〇一二年三月に計画を実施、マルワリード用水路末端から約二六〇mのサイフォンで大きな洪水路を横断してシギ下流域を潤し、上流域は水量調整が可

別表1 2014年度 診療数及び検査件数

国名	アフガニスタン	
地域名	ナンガラハル州	
施設名	ダラエヌール診療所	
外来患者総数	46,122	
【内訳】	一般	35,075
	ハンセン病	24
	てんかん	507
	結核	106
	マラリア	5,920
	外傷治療総数	4,490
入院患者総数	—	
検査総数	12,651	
【内訳】	血液一般	674
	尿	2,109
	便	3,077
	ハンセン病塗抹検査	1
	抗酸性桿菌	140
	マラリア	5,941
	リーシュマニア	290
	その他	419

別表2 PMSによる事業実績 (2003～2015)

位置	事業名称	工事期間	事業内容	事業・灌漑地域		灌漑面積 (km^2)	事業費 (ドル)
				県・郡	村落		
①	マルワリード堰・用水路	2003～2010	取水堰・取水門・調節池・用水路(27km)・分水路・サイフォン・排水路・護岸(約2km)・防砂林・貯水池など	シェイワ	シェイワ、シギ、スランブール、ガンベリ、シェトラウ、カンレイ	3,000	16,496,529
②	シェイワ堰	2007～2008	取水堰・取水門・調節池・用水路(360m)	シェイワ	シェイワ	500	①に含む
③	シギ堰	2014～2015	取水堰・取水門・調節池・用水路(200m)	シェイワ	シギ上流域	600	324,109
④	カシコート堰	2012～2014	取水堰・取水門・用水路(1992m)・調節池・護岸(4.0km)	シェイワ	上カシコート 下カシコート	2,500	3,110,116
⑤	ベスード第Ⅰ堰 (カシマバード)	2011～2012	取水堰・取水門・調節池・用水路(280m)	ベスード	ベスード西部	2,500	1,239,679
⑥	ベスード第Ⅱ堰 (ミラーン)	2014～	取水堰・取水門・調節池・用水路(400m)・排水路(500m)・護岸(2.0km)	ベスード	ベスード東部	1,100	1,306,573
⑦	タプー堰	2010～2012	取水堰・取水門	ベスード	ベスード東部 (クナール河沿岸)	500	1,631,188
⑧	ベスード護岸堤防	2010～2012	護岸(3.0km)	ベスード			
⑨	カマ第Ⅰ堰	2008～2010	取水堰・取水門	カマ	カマ高地域	2,000	①に含む
⑩	カマ第Ⅱ堰	2010～2012	取水堰・取水門・調節池・用水路(1040m)・護岸(500m)	カマ	カマ中低地域	5,000	651,116

能な取水堰を建設する予定であった。下流域については、一三年六月までに全長約2kmのマルワリード延長路を完成させたが、上流域の取水設備は一三年夏の洪水で延期されていた。

二〇一四年十月、予定地から約3km下流に取水設備の建設を開始、一五年三月に完工した。この間六ヶ月、一連の取水設備は「PMS方式」である。施工は完全に地元技師に任せて試験例とし、ほぼ自力で出来



カシコート＝マルワリード505mの連続堰 (2014年4月14日)



巨礫を置いたシギ堰。全体が扇状で中央が窪んだ形。高水位時の流れを引き寄せ、堰をかけた中州を破壊しないように取水門側から約20mを数センチ低くしている。2015年2月7日

ることを確認した。現在、シギ堰だけで五〇〇〇六〇〇畝を潤し、シギ全域約一〇〇〇畝が安定灌漑の恩恵に浴した。
これによってシェイワ郡全体の水争いに終止符を打った。

◎ベスード第Ⅱ堰（ミラーン堰）

住民たちの嘆願から三年、二〇一四年十月、JICA共同事業として、ミラーン堰が着工した。同取水口は度重なる洪水にさ

らされて年ごとに流失地が増加、流域の灌漑が不安定で農業生産が低下し、水争いが絶えない地域であった。予想外の出来事は、洪水

による浸食が甚だしく、村落流失の危機の中で工事を開始したことである。住民の死者行方不明五名という緊急事態で、大幅に設計を変え、計二、六七〇mの護岸と交通路確保を余儀なくされた(図2参照)。急ぎよベシャワール会の協力を得て、ダンプカー三〇台を含む機械力を総動員し、総力を挙げて工事が進められた。

この結果、翌一五年三月までに基礎工事を終え、用水路を開通させた。堰や護岸などの河川工事は、増水期に入った夏も続けられている。堰の完成を一六年三月までに予定している。

完成すれば一、一〇〇畝の耕地を潤し、第Ⅰ堰と併

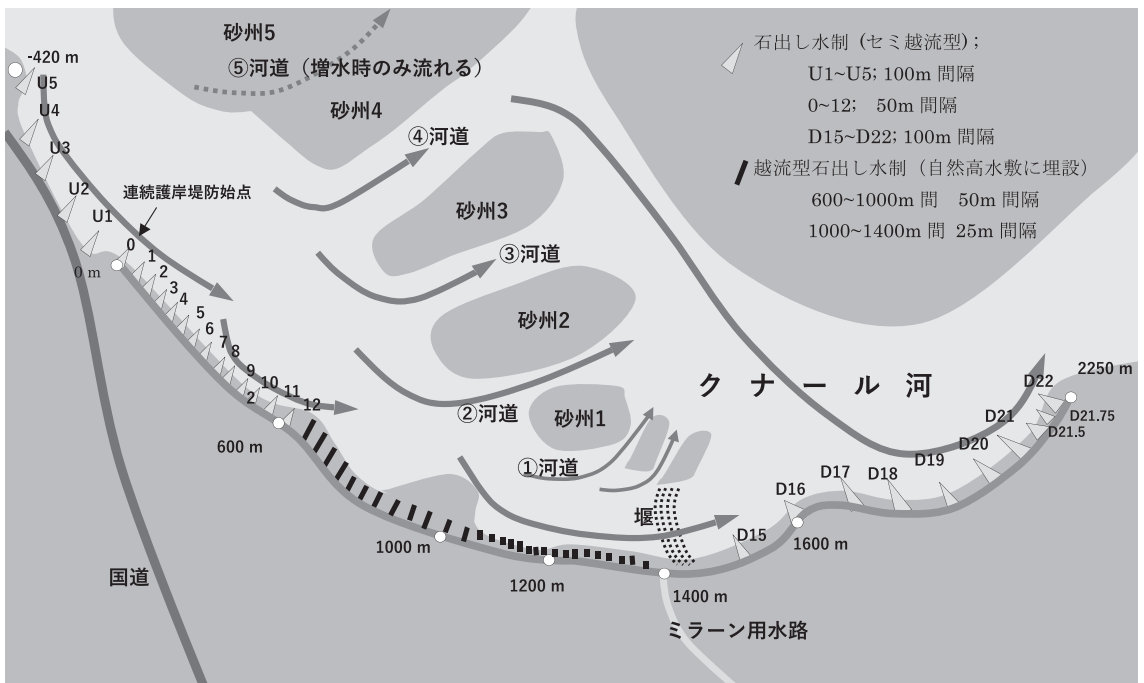


図2 ミラーンの護岸工事概要(連続堤2670m)

水路概要	灌漑給水能力	3.0~5.0m ³ /秒 (450,000m ³ /日)
	推定灌漑面積	約2,500ha
	水路沿い植樹総数	47,000本
⑤ ベスード第Ⅰ堰		
取水堰	堰形式	河道全面への巨石石積による堰上げおよび対岸法面の根固工
	堰幅	120m
	堰長	15~30m
取水門	取水門形式	手動・4連・堰板式水門
	取水口	幅1.6m×高3.0m×4門・2列
	通水能力	2.0~6.0m ³ /秒
川沿い主水路・沈砂池		急傾斜水路; 155m、沈砂池68×50m
洪水対策	目的	主流路変更
	堰下流左岸	河道拡大; 幅50m、長さ400m
水路概要	灌漑給水能力	2.0~5.0m ³ /秒 (500,000m ³ /日)
	推定灌漑面積	約2,500ha
	水路沿い植樹総数	7,600本
⑥ ベスード第Ⅱ堰		
取水堰	堰形式	河道全面への巨石石積による堰上げおよび対岸法面の根固工
	堰長	20~30m (予定)
	堰幅	200m (予定)
取水門	取水門形式	手動・3連・堰板式水門
	取水口	幅1.5m×高3.0m×3門・2列
	通水能力	2.5~5.0m ³ /秒
川沿い主水路・沈砂池		急傾斜水路; 360m、沈砂池27×40m
洪水対策	目的	洗掘防止対策および主流路変更
	区間・工種	420m; 半越流型石出し水制5基、2,200m; 石出し水制46基を伴う連続堤防
水路概要	通水量	2.0~4.0m ³ /秒 (冬季150,000m ³ /日、夏季350,000m ³ /日)
	推定灌漑面積	約1,100ha
	水路沿い植樹総数	15,110本 (ヤナギ14,550, ユーカリ560) 2015年4月現在
⑦ タブー堰		
取水堰	堰形式	河道全面への巨石石積による堰上げおよび対岸法面の根固工
	堰幅	200m
	堰長	20~30m
取水門	取水門形式	スライド式
	取水口	幅1.0m×高3.0m×1門
	通水能力	1.0~1.5m ³ /秒
川沿い主水路・沈砂池		(造成なし。既存水路に直接連結)
洪水対策	目的	主流路変更
	上流300m地点河道分岐部	人工砂州による河道分割
水路概要	連続堤防の裏法ドレーンを兼用、600m	
	推定灌漑面積	約500ha
	水路沿い植樹総数	6000本
備考	ベスード第二取水堰の完成後に廃止、流域を統合予定	
⑨ カマ第Ⅰ堰		
取水堰	堰形式	河道全面への巨石石積による堰上げおよび対岸法面の根固工
	堰長	200m
	堰幅	20~40m
取水門	取水門形式	手動・3連・堰板式水門
	取水口	幅1.5m×高4.0m×3門・2列
	通水能力	2.5~5.5m ³ /秒
川沿い主水路・沈砂池		(造成なし。既存水路に直接連結)
洪水対策	目的	洗掘防止対策および主流路変更
	堰上流部	河道分割・対岸(右岸ベスード側)河道拡大; 幅50m×長さ約700m
水路概要	堰下流部	左岸連続堤防; カマ第二堰までの350m区間、堰上流部200m
	最大送水量	2.0~4.0m ³ /秒
	推定灌漑面積	約2,000ha
	水路沿い植樹総数	7,000本
⑩ カマ第Ⅱ堰		
取水堰	堰形式	河道全面への巨石石積による堰上げおよび対岸法面の根固工
	堰長	95m
	堰幅	20~30m
取水門	取水門形式	手動・4連・堰板式水門
	取水口	幅1.5m×高4.0m×4門・2列
	通水能力	5.0~9.0m ³ /秒
川沿い主水路・沈砂池		急傾斜水路; 800m、沈砂池150×10m、送水路90m
洪水対策	目的	洗掘防止対策および主流路変更
	堰上流部	左岸連続堤防; カマ第一堰までの350m区間
水路概要	灌漑給水能力	4.0~7.0m ³ /秒 (600,000m ³ /日)
	推定灌漑面積	約5,000ha
	水路沿い植樹総数	20,800本

別表3 PMS 単独事業およびPMS-JICA 共同事業の概要(2015年4月1日現在)

項目	内容	
① マルワリード堰・用水路		
取水堰	堰形式	河道全面への巨石石積による堰上げおよび対岸法面の根固工
	堰幅	冬季220m(川床工を含む)、夏季280m
	堰長	25~50m
取水門	取水門形式	手動・3連・堰板式水門
	取水口	幅1.2m×高4.0m×3門・2列
	通水能力	3.5~5.0m ³ /秒
川沿い主水路・沈砂池	急傾斜水路:1600m、沈砂池330×180m	
洪水対策	目的	洗掘防止対策および主流路変更
	C地区	160m捨石工、蛇籠工
	D地区	300m巨石の捨石による石出し水制(長さ70m×3基)
	F・G地区	約1000m、巨石の捨石による石出し水制(長さ100~140m×3基)
用水路	場所	クナール州ジャリババからナンガラハル州シェイワ郡ガンベリ村まで
	全長	約24.7km
	平均傾斜	0.00696(1/1450)
	標高差	17.2m(取水口標高633.5m、ガンベリ沙漠の終点.616.3m)
	通水量	4.5~5.5m ³ /秒(限界最大量6.0m ³ /秒)
	推定損失水量	30%(浸透損失20%、無効水10%)以下
	灌漑給水能力	4~5m ³ /秒(500,000m ³ /日)
	推定灌漑面積	約3,000ha
	水路沿い植樹総数	476,669本(2010年2月現在)
	その他	排水路
主要分水路		計13.4km
ため池(緩衝池)		12ヶ所
地下水道(暗渠)		11ヶ所、総計550m(サイフォン10、トンネル1)
砂防林		幅200m×約5.0km
揚水水車		2基
シギ延長路(2014年完工)		計2km、(サイフォン7を含み、シギ下流域に送水)
営農指導		浸漑行事の定例化、地域により順番性の灌水指導
備考	2014年、マルワリード堰はカシコート堰と連結し、堰幅505mの連続堰の右岸側を成す	
② シェイワ堰		
取水堰	堰形式	河道全面への巨石石積による堰上げおよび対岸法面の根固工
	堰幅	65m
	堰長	20m
取水門	取水門形式	手動・2連・堰板式水門
	取水口	幅1.6m×高4.0m×2門・1列
	通水能力	2.5~4.0m ³ /秒
川沿い主水路・沈砂池	急傾斜水路・沈砂池一体型;約300m	
水路概要	灌漑給水能力	2.5~3.5m ³ /秒(300,000m ³ /日)
	推定灌漑面積	約500~600ha
	水路沿い植樹総数	1200本
③ シギ堰		
取水堰	堰形式	河道全面への巨石石積による堰上げおよび対岸法面の根固工
	堰幅	200m
	堰長	15~20m
取水門	取水門形式	手動・4連・堰板式水門
	取水口	幅1.5m×高3.0m×4門・2列
	通水能力	2.5~4.5m ³ /秒
川沿い主水路・沈砂池	急傾斜水路;123m、沈砂池50×10m	
洪水対策	目的	ダラエヌール渓谷からの洪水路変更・堰周辺の溢水防止
	取水堰上流300m地点	300~400mの盛土で洪水路を分離
	堰上流右岸	巨礫による連続堤防;約300m
水路概要	灌漑給水能力	2.5~3.5m ³ /秒(300,000m ³ /日)
	推定灌漑面積	約700ha
	水路沿い植樹総数	4500本
④ カシコート堰		
取水堰	堰形式	河道全面への巨石石積による堰上げおよび対岸法面の根固工
	堰幅	約300m
	堰長	80~120m
取水門	取水門形式	手動・4連・堰板式水門
	取水口	幅1.5m×高4.5m×4門・2列
	通水能力	2.5~5.5m ³ /秒
川沿い主水路・沈砂池	急傾斜水路;1725m、沈砂池67×30m	
洪水対策	目的	洗掘・溢水防止対策および主流路変更
	下流2km地点の蛇行進入路	砂州移動による河道変更(約700m)
	上流1km地点洪水進入路	植樹工・盛土による溢水量の緩和
	下流約3km	越流型水制を根固めとする連続堤防
	上流約1.5km	越流型水制を根固めとする連続堤防

せると、ベスード郡の大半が安定灌漑の恩恵に浴する。難工事ではあったが、「洪水にも濁水にも強い取水システム」の本領を発揮した。これによって、河川工事でもPMSの護岸方法がほぼ定着した。

◎事業調査と 広域拡大の準備

JICA共同事業調査に協力し、PMSの過去の実績と評価が行われた。結果は一年六月以降に公にされる。

これを機に過去のPMS事業の「技術編」がまとめられて英訳され、近い将来の広域拡大へ向け、資料が整理された。また行政側の理解が深まり、二〇一五年三月、アフガニスタンのドウラニ農村復興開発省大臣が山田堰（福岡県朝倉市）を視察訪問し、飢饉対策の緊急性と灌漑の適正技術について意見が交換された。

だが、全国拡大は急にはできるものではない。

一、文化や地勢・気候の類似した東部アフガンを中心に徐々に、かつ確実に拡大すること。

二、実事業を継続しながら、その中で「土着の実戦部隊」（現場技術者・監督）を組織的に育成すること。

三、このため日本側事務局の機能を強化

し、PMS事務所と一体化すること。四、中央集権的な方法はアフガンに適さない。地域中心、かつ住民の自主性が

尊重されるべきであること。

以上が基本方針、かつ絶対条件であるとPMSは考えている。「事業によって事業を養う」という方針は変わらない。現下の不穏情勢らを考慮し、「緑の大地計画」が区切りを迎える二〇二〇年頃までには態勢を整え、次の展開に備えたい。

3. 農業・ガンベリ沙漠開拓

◎PMSガンベリ支所の設立

二〇一三年より砂防林計5km（岩盤周りを含むと計7km）の効果が現われ始め、開墾が急速に進んでいる。

新開地は約一千畝前後で、うち二〇〇畝をPMSが受け持っている。新開地は全て政府公用地であるため、PMSでは土地を貸与されるという形を取ろうとしている。

一四年度は、オリーブやかんきつ類栽培の拡大、サトウキビ栽培の開始が行われた。水稻栽培は土地改良の目的で継続している。小麦は四〇畝で収穫された。牧畜では乳牛を増やし、チーズやヨーグルト等の

乳製品も生産されている（詳細は次号で報告）。

ガンベリ沙漠ではこれまでの給排水路整備と共に、農業事業が大きな比重を占めるようになったので、農業部と灌漑部を統合して「PMS・ガンベリ支所」が開設された。以後、同地開拓の中心となり、将来的に「出荷センター」らの構想も上がっている。

◎ガンベリ記念公園と資材生産工房

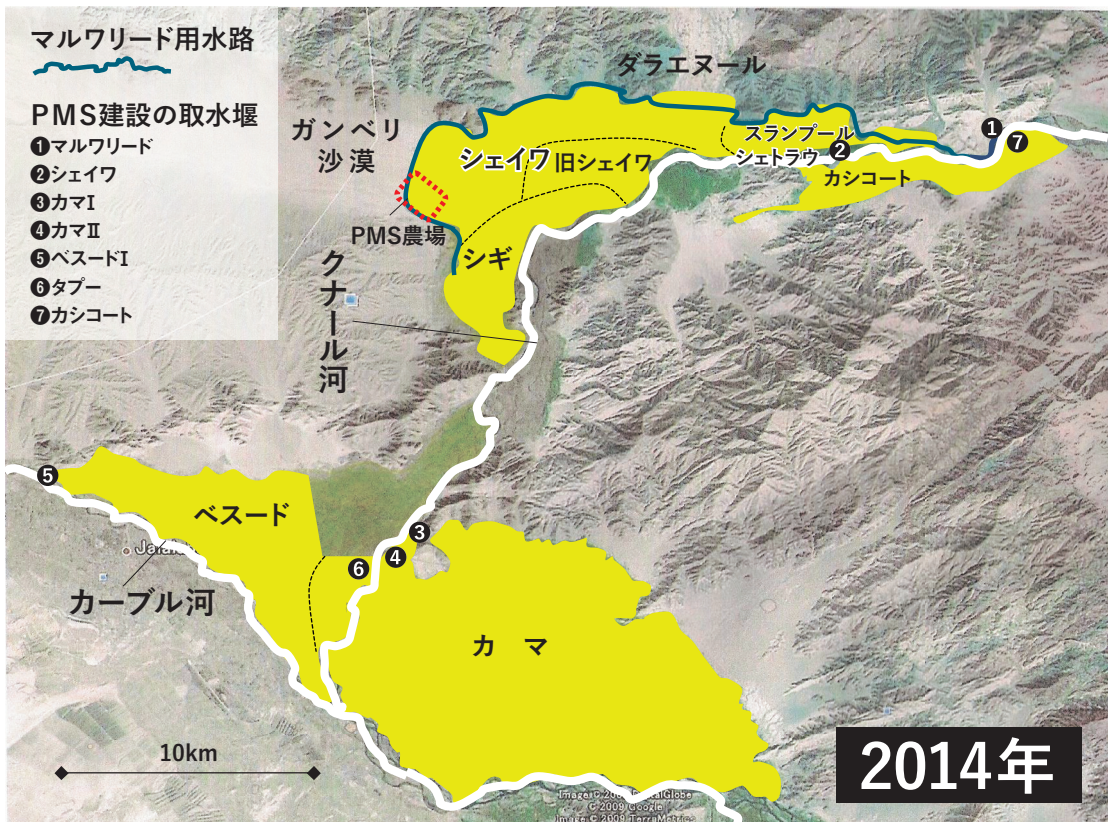
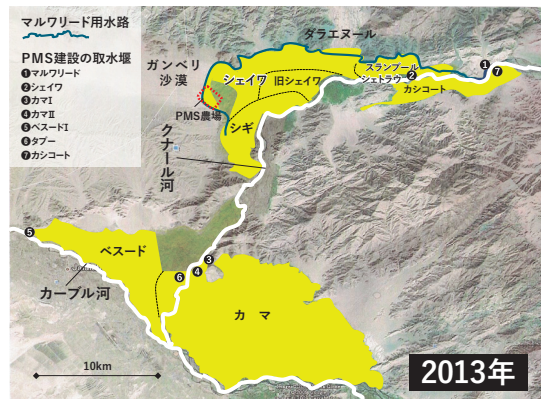
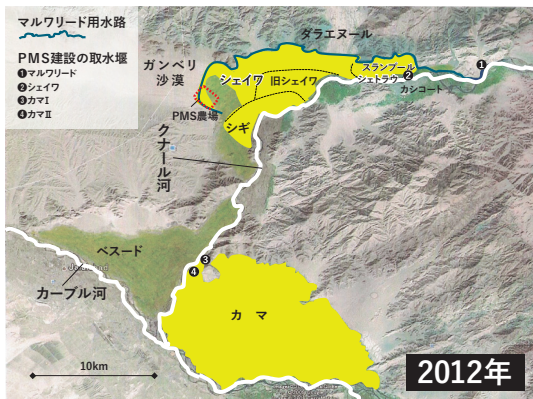
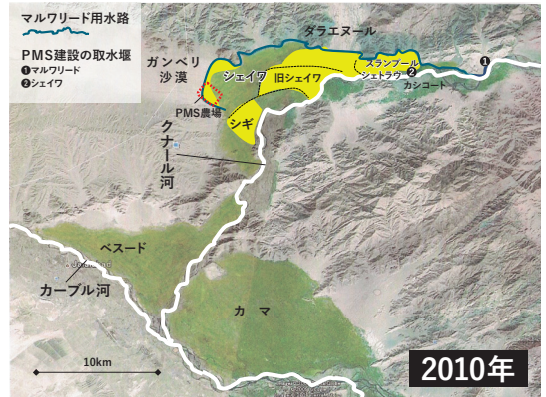
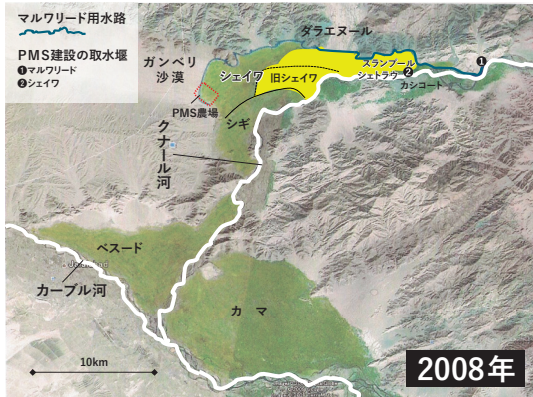
資材生産工房が移転し、跡地に「記念公園」が造成中である。公園は、集会だけでなく近い将来の「オレンジ詩会」開催等を目的とし、ガンベリ支所は建設中の記念塔内に置かれている。

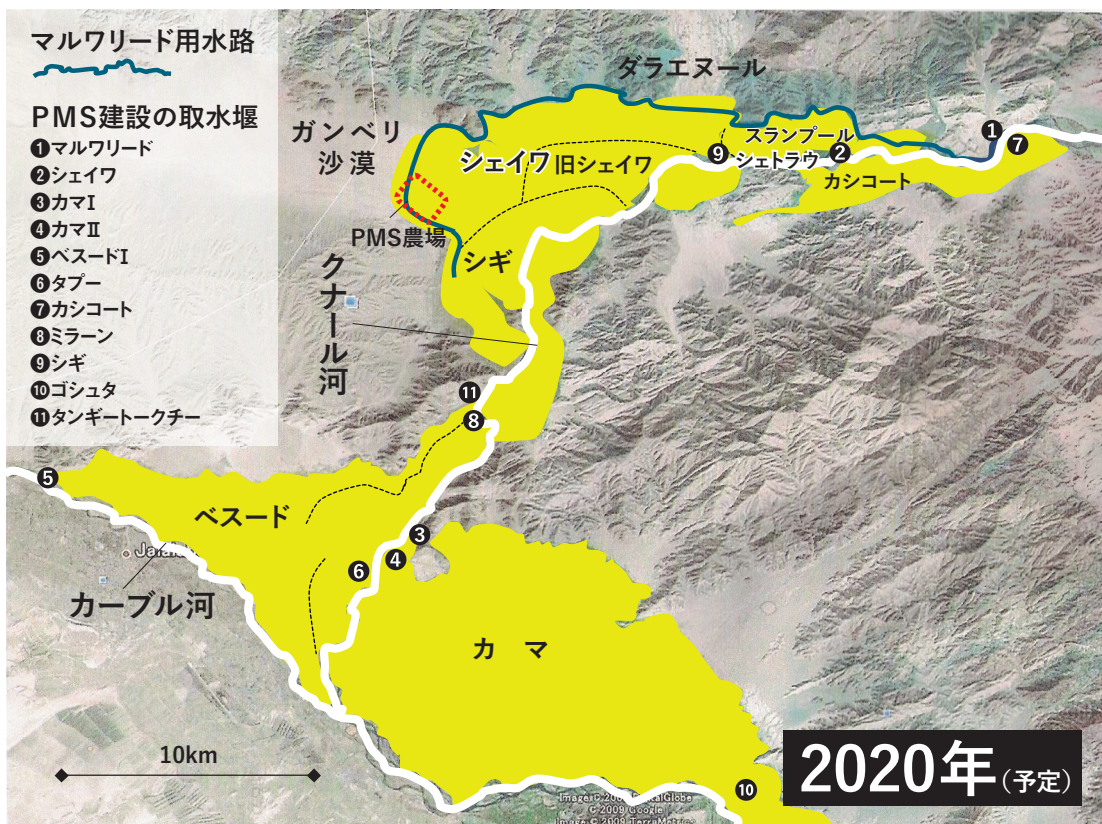
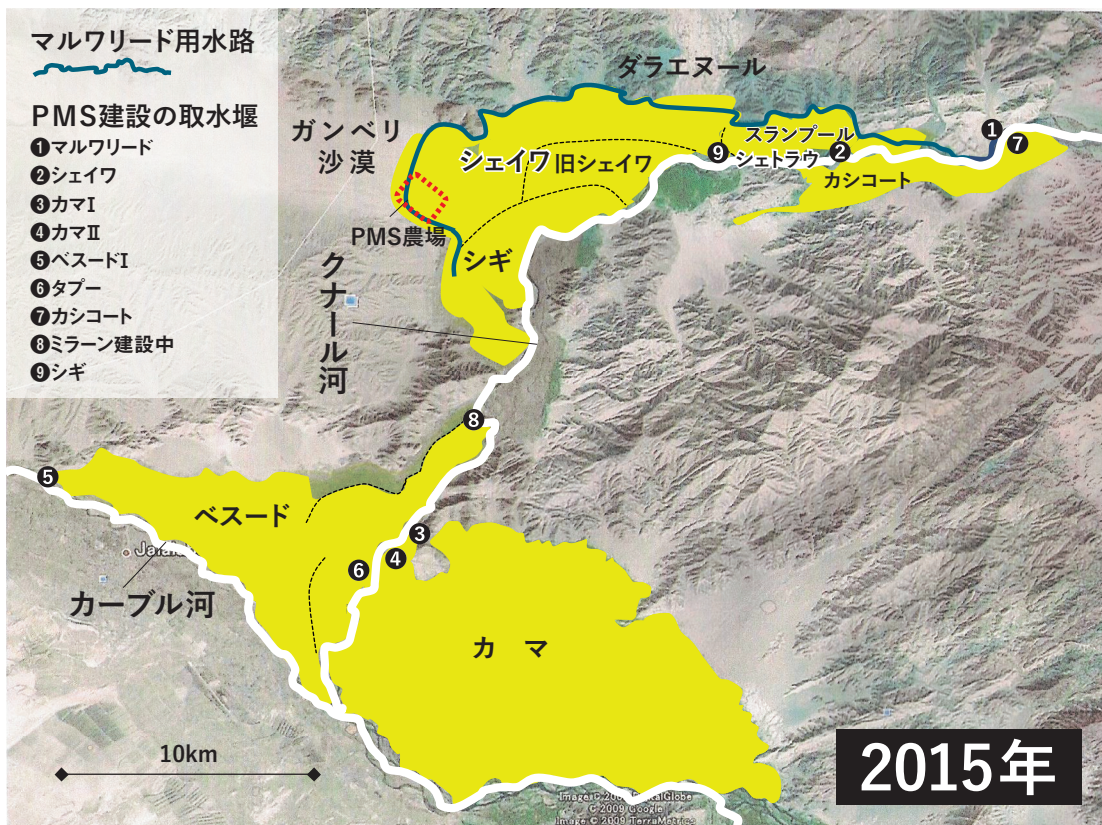
資材では蛇籠やRCCパイプなどの需要が増してきたため、常時四〇名が工房で働いている。

◎その他

一四年一月〜十二月の植樹数は三八、八五本、大半が新設用水路沿いの柳枝工とガンベリ農園の果樹で占められる。十五年三月までの総植樹数は八四六、〇四九本である（別表4参照）。

PMS・取水堰による安定灌漑地域（耕地）の変遷

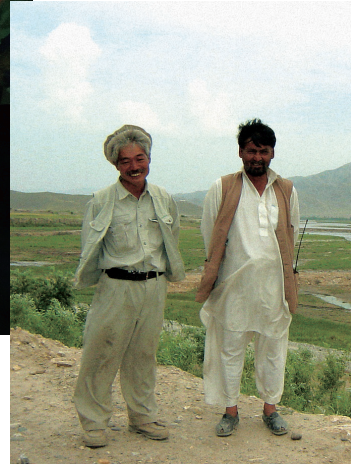




【カラー特集】PMSの頼もしき現地スタッフ①



↓モクタル（運転手／1989年2月入職）用水路事業が始まってからは、中村医師専用車の運転手となり、長年行動を共にしたため現場を最も知る一人。時には中村医師の通訳を兼ねた。現在は現場監督。



↑右:アーベット(男性看護師/1987年10月入職)。ミッション病院ハンセン病棟での手術日は、JAMSから出向し中村医師のアシスタントをした。1998年からPMSのヘッドナースとして現在に至る。日本からのワーカーの多くが彼の世話になった。左:アブドゥラー(診療所助手/1994年11月入職)。中村医師がミッション病院から活動拠点を変えるとき一緒に移動して以来の職員。読み書きはできないが観察力に長けており、病院や診療所の改善の力になっている。



←ハミドゥラ(医師/1990年6月入職) グラエヌール診療所勤務。診療所に寝泊まりする現地職員や日本人ワーカー達に、ハエや蚊によるマラリア、腸チフス、リーシュマニア感染のおそれを毎日説明し、自ら率先してハエ叩きを片手に駆除している。日々の診療業務では、どんなに忙しくても一切の不満を口にせず、とても優しい人柄で患者に対して丁寧な診療を行っている。



←右:グラムナビ(運転手/1991年12月入職)。ペシャワールでは危険をいち早く察知するため、日本人ワーカー達の運転手として働く。私たちの話す下手なパシュトー語を聞き取ろうと努力してくれた。



↑グラムモハammad(男性看護師/1992年10月入職)。ナースとして、時に患者を厳しく叱りつける真面目な姿勢を見せる反面、仕事を離れると医療職員一のひょうきん者の一面も持ち合わせる。患者の為の業務改善にも自らアイデアを出し、周りの意見にも真剣に耳を傾け、それが本当に患者にとって良いと感じたことには仕事時間外でも黙々と作業にあたる。



←右:ヌール(事務職員/1994年11月)。口達者で見栄っ張りでお調子者の印象を受けるが、シャイで心根の良い人柄で与えられた仕事を一生懸命こなす。現在はガソリンや軽油の給油担当として日々責任を持って仕事にあたっている。ペシャワール病院勤務時には、外来患者の受付業務、食材や灌漑事業の植樹や用水路工事で使用する麻袋や農業用の鶏糞等、様々な資材購入にもあった。中央:ガフール(エンジニア/2000年9月入職)。井戸事業の現場監督として採用され、後に灌漑用水路事業の現場監督となる。人柄は温厚で、誰にでも優しい。仕事に関しては、やり手ではないが、PMSとして重要視される「誠実さ」に関しては、文句の付けどころがない。大変な仕事を頼むと、嫌な顔はするが、最後には受けてくれる。少し気は弱いかもしれないが、一緒に働いていて、とても頼もしい人物である。トレードマークは頭の上にとちょこんと乗った丸い帽子(トービー)。常に歪んでいるのが可愛い。



↑右端:アジズラフマン(現場副責任者/1999年3月入職)。学校の校長先生だったがベシャワールへ難民化。ベシャワール基地病院に入職。



↑グラムサキ(事務員/2000年8月入職)。PMSが井戸掘削を開始した時からの職員。同時に採用したエンジニアたちの恩師。井戸事業開始の翌年、PMSではケーブルに集中した国内避難民に対して食糧配給を行い、彼も配給作業に尽力した。空爆が始まってしまい配給作業に就いた職員たちが恐れをなし引き上げようとするとき「私は配給を続行する」と宣言し、恩師を尊敬している職員たちは全員配給作業を続けた。タラフダール(方向を示す人)という別名を持つ。長年水路建設の先頭の作業に就いたが、現在は事務所で職員たちに読み書きを教えている。



←右端:ファヒーム(エンジニア/2000年9月入職)井戸事業で周りから一目置かれているエンジニアたちの多くは、灌漑用水路事業に移籍した矢先に、PMSを去って行った。しかし、彼を含む数名は井戸事業から灌漑用水路事業と、仕事内容や環境など、大きく変化したにもかかわらず、PMSの事業を支え続けてくれている。その柔軟な姿勢、対応力には驚かされる。頼りがいのある人物であり、今後の灌漑用水路事業でも更なる活躍が期待される。



←ジア・ウル・ラフマン(医師・ジャララバード事務所所長/1996年5月)。「どんな仕事でも、電気、ガス、交通機関がないようなどんな僻地へでも行って仕事をする医者がある」と、ジア医師を紹介した人が言ったとおり的人物。2008年以降アフガニスタンのPMSジャララバード事務所でも中村医師たちの現場作業を多岐に亘る事務面で全面的に支えている。時々「私は本当は医者なんだー！」と爆発する時がある。

↓右:グラムジャン(調理人/1995年4月入職)。時には掃除人、門衛、調理人と仕事をかわったが、自分に与えられた仕事に黙々と取り組み中途半端な仕事をしない。



↑モハマドジャン(宿舎管理/2000年8月入職)。日本人への理解が深く、長年に亘り日本人宿舎にて中村先生をはじめ日本人ワーカーの世話をしている。門衛としての仕事にプライドを持っており、無理なお願いにも嫌な顔をせず黙々とこなし、時には日本人ワーカーを叱り、細かな配慮を持って日々の現地生活を支えてくれている。ただし買物はやや苦手とする。ジャララバードが何者かに襲撃された時、宿舎入口で「ここには外国人はいない」と言い切り、一歩も宿舎に入れなかった。



↑左から2人目:ハニフラ(会計担当/2000年9月入職)。2000年の井戸事業開始時にPMSで働き始めエンジニアとして従事した後、現地会計責任者に任命される。細かい数字の計算を苦手とする人が多い中、正確さ(と誠実さ)を求められる会計作業において常に意欲的に学び、正確なレポート作成の為に実直に仕事に勤しむ稀有な職員。



2014年度の主な収支

期間 2014年4月～2015年3月

'14年度会計報告

一般会計(単位:円)

[収入の部]

1 会費・寄付	245,448,292 ①
2 補助金等	0
3 利息雑収入	1,116,963 ②
4 収益事業収入	636,720 ③
5 基金取崩	0
年度収入計	247,201,975
前年度繰越	51,786,676
収入計	298,988,651

[支出の部]

1 現地協力費	88,821,224
うちPMS運営費	0
アフガン事業費	75,756,215 ④
ワーカー費	299,730 ⑤
渡航費	5,878,667
国内活動費	6,886,612
2 広報費	8,250,906 ⑥
3 事務局費	19,687,126
年度支出計	116,759,256
基金への繰入	120,000,000
次年度繰越	62,229,395
支出計	298,988,651

- ① 会費寄付個人17854件/団体675件
- ② 利息、為替差益
- ③ 収益事業会計から
- ④ 農業用灌漑用水路建設等
- ⑤ 現地支援ワーカー、通信費等
- ⑥ 会報印刷、送料等
- ⑦ カレンダー印刷、書籍送料、取材謝礼

収益事業会計

[収入の部]

書籍売上	2,450,022
DVD売上	951,745
雑収入	410,092 ⑦
売上収入計	3,811,859

[経費の部]

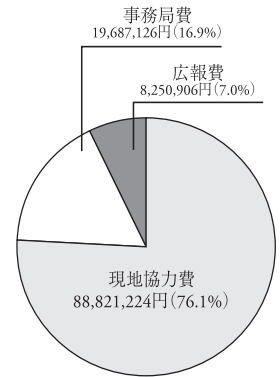
書籍等原価	2,487,667
販売費	455,572
事業所税等	231,900
経費合計	3,175,139
収益事業収入	636,720

「いのちの基金」残高

期首残高	350,000,000
一般会計から繰入	120,000,000
期末残高	470,000,000

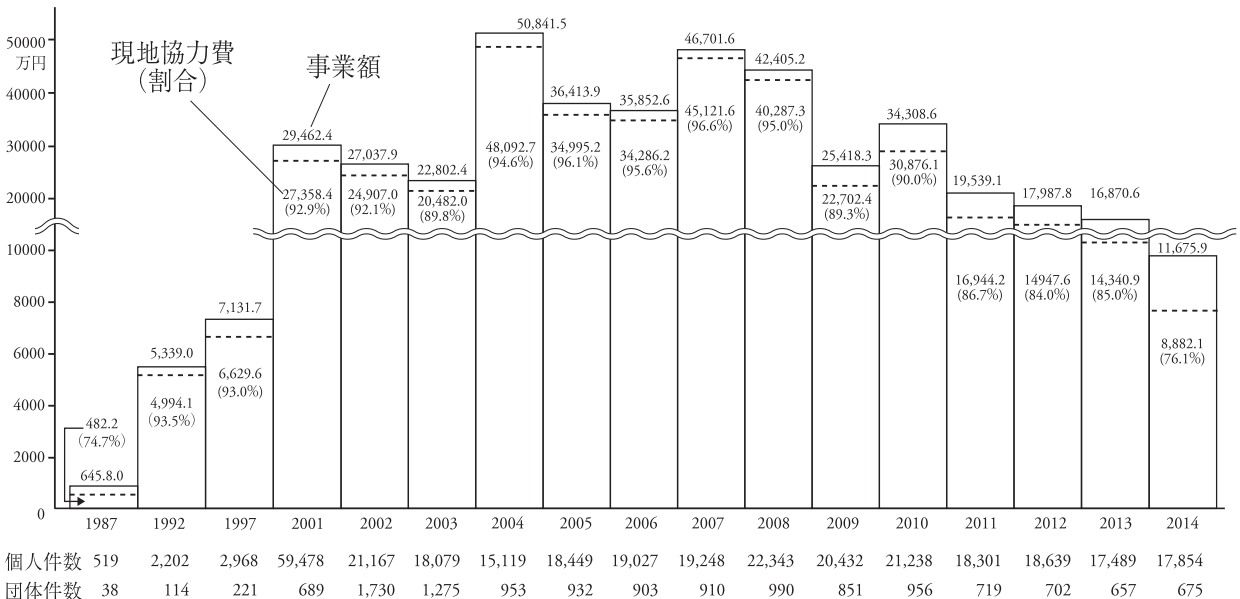
未使用切手、書き損じ葉書の寄付	
寄付いただいた件数	1,018件
未使用切手枚数	42,646枚
同 金額	4,790,215円相当
書き損じ葉書枚数	32,066枚
同 金額	1,472,555円相当
合計金額	6,262,770円相当
*会報発送費用に活用しています。	

●2014年度事業額(支出ベース)
116,759,256円



事業規模(会費・寄付件数、事業額)の推移

1987～2014(年度)



会長退任のご挨拶

ペシャワール会名誉会長

後藤哲也



用水路の作業状況を視察中の後藤前会長（2007年4月）

この度、私は一〇年間に亘るペシャワール会会長を退任させて頂くことになりました。高齢や体調不良でアフガニスタンの現場に行けなくなったためですが、幸い村上優先生が後を引き継いでくれることが決まり心から安堵している所です。就任した時は丁度用水路事業が始まった

ばかりで中村哲先生、ペシャワール会の活動が医療から本格的な灌漑事業に変換した転換時でした。そして退任する今日はその灌漑事業が一段落し、今後はこの事業をアフガニスタン全土に拡大しようという国家規模の企画に成長しようとしております。この一〇年を振り返ると用水路、用水路で明け暮れた感じが致します。その間大変不幸な事件もあり、伊藤和也君という有為な人材を失いました。未だ悲しみがうすら

中村哲医師の活動は

続きます

ペシャワール会会長

村上 優

このたび後藤哲也会長より会長職を引き継ぎました村上優です。中村哲医師とは大学の一年後輩で、中村先生が医師を始めた国立肥前療養所（現肥前精神医療センター）の一年後輩でもあります。またペシャワール会が発足した一九八三年に事務局長として中村先生の活動を支えた佐藤雄二先生も肥前に勤務されていましたが、病のために一九九一年に亡くなられて事務局長を引き継いだ経緯もあります。

ぐことはありません。今は、さまざまな困難を会員の皆様、事務局の方々の温かいご支援ご協力を得てなんとか乗り越えてこられたと感謝の気持ちで一杯です。

ペシャワール会の活動は今後も皆々と継続される見通しです。皆様のご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

この一〇年間は本当にお世話になり、有難うございました。

ペシャワール会の初代会長は問田直幹先生で、ペシャワールミッション病院から始まる中村先生の現地医療活動を支えて、ハンセン病根絶計画やアフガン難民診療、さらには現在のドラエヌール診療所に始まるアフガン東部山岳地域への診療所の展開の時期に当たります。

それを引き継いだ二代目会長の高松勇雄先生は、PMS基地病院建設とそれに続くアフガンとパキスタンにまたがる診療所を建設する時期で、難民帰還や山岳地域での診療をとおしてハンセン病対策に力を入れていた時期でもあり、また当時すでに干ばつが進行していく中で井戸を掘るといって中村先生の活動の大きな転換期を見守る時期でもありました。その最中に二〇〇一年の9・11に端を発するアメリカのアフガン侵攻による混乱もありました。医療活動から

干ばつや戦乱に苦しんでいる人々に、その地元で水源確保事業を通して生活を支える事業への転換となっていききましたが、その時期の会長が後藤哲也先生でした。

いまではアフガンスタンのナンガラハル州とクナール州にまたがる広い地域の灌漑が多様な形で現実のものとなっています。

中村先生が活動を始めるときに掲げられた「一隅を照らす」の標語のように、移ろいやすい世の中での喧噪をよそにこの地一筋の活動は医療から水利事業、さらにはそれを基にした農業事業によって地域全体の生活を支えてきました。一〇〇年に一度と表現される天変地異が毎年のように起こる気候変動に黙々と立ち向かう姿は、それを傍で見守るものを巻き込んで多くの支援者が参加する会になりました。現地の実質的な活動なくしては、これほどの共感や支援をいただくことは出来ません。支援していただいた皆様に感謝をいたします。ありがとうございます。

さてペシャワール会の会長は一〇年ごとに交代をして現在にいたりますが、現地の活動を支える目的は変わりません。三〇年を振り返ると、命の大切さを現地で考えるという変わらぬ信念はいつも中村先生の活動とメッセージの中に存在します。これからも中村先生の現地活動を支える会としてペシャワール会が存在するように力を尽く

します。

マルワリード用水路から始まるクナール河の灌漑用の水路工事や河川事業は、現在のJICAとの共同事業としてカマ地区からベスード第Ⅱ堰（ミラーン）にわたり実施されてきました。アフガンスタン政府も水利事業の重要性を認識し始めていますし、またわが国のアフガン振興策にも現地の視点の重要性を理解する契機となり、この地域での水利事業から農業自立を目指した生活支援が復興支援モデルとなっているとの認識が深まっています。現在中村先生が作成されている水利の技術書によって、また新たな地平に活動がすすむでしょう。

これからの一〇年は中村先生の年齢を考えると、いかにこの事業の枠組みを現地に根づかせるか、継続可能な姿に育て上げるかという時期に当たると想像します。

とはいえ自然の変化、政治や戦乱は私たちがコントロールすることの出来ないことです。現地活動では多くのパキスタン・アフガンスタン、そして日本人々が参加してきました。また活動のなかで命を失われた人々も私たちの記憶から消えませんが、愚直にこの地にかかわり続けてきた中村先生の活動に、人の善意や真理の普遍性を見ることが出来るように感じます。私たちペシャワール会もそうありたいと願って、中村医師の事業を支えつづけたいと思います。

サファル・バヘル！（良い旅を）

ハッダ村の三兄弟

甲斐大策

22

暑熱は木蔭にも激んで動かない。水路の泥は浚え終えた。六十歳になる長兄は瞠目して呟き続ける。遙か、兄弟達のハッダ村が霞んで見える。

ジャラーラーバード^①は、カーブルとペシャワールの中間に在る。その古名は今日、ナンガラハルとして一帯の州名に生かされている。

市の南、ハッダには佛教聖都の遺構が在った。一九五〇年代半ばのある冬、フランスの調査隊は、アフガン佛教美術の精髓と信じた佛像を選別発掘、そして搬出の朝、木箱の中に見たのは至ての塑像を粉砕した泥塊だった。夜陰に乗じた村人達の所業だった。

市内には、西欧化に励む冬の離宮を部族が攻めた跡が少なくない。王室の保護下に飲食満ち足りた遺構での作業が、また、冬を嬉しく過ごすだけの離宮が、極暑とソーダ質の土壌をやっと生きる人々の前に在った。偏狭な宗教心でも愚直な近代全肯定でもなく、人々は、己の都合だけで他所者が進める所業に忿懣を叩きつけたのだ。西欧世界は、この地の人々の蛮性を語り、哀しみや怒りには口をつぐむ。そしてこの三十数年、他所者の都合での、世界レベルの蛮行は聖蹟を泥の起伏に変え、離宮の名残りも荒廃させた。それでもこの土地は、マルタ^②の果樹園を護りとおした。全土の、有名無名問わず、詩人が集い詩を吟じ合ってマルタの花に献じる、ムシヤラ（詩の合歡）は生き永らえたのである。

「兄貴は来春のムシヤラ迄あなのかね、……ああ、愛しいお前の眉は新月の、その立つ姿は糸杉の……って……。」

末弟が茶化すのを次兄は聞き流し、兄貴には辛いことがあるのだよ、と論じ気味に言い、水路の流れに足を入れる為靴を脱ぐ。

村の方角からアザンがかすかに流れてきた。

(1)近代の命名「高貴なる威厳の地」の意。
(2)オレンジの一種

◎現地スタッフからの便り

PMSで働くことは
私にとって喜びです

PMS職員/水路現場監督
ザミールグル

私はモハマッドアシユラフの息子でザミールグルといます。ナンガラハル州ベスード郡ドブリー村の出身で、現在も同じ所に住んでいます。一九六九年一月一日生まれの四六歳です。結婚しており、子供が八人います。

一九九三年にベシャワールのイスラム経済学校卒業。ペルシャ語、パシュトゥー語に加え、英語を少々話します。

十三年働いています

私は二〇〇二年一〇月よりPMSに勤め、以下の職務に就きました。

最初の三か月はチョキダール(門衛)として働きました。

その後、正直で誠実で先を見越した行動力とやる気があり、熱心で責任感があることを認められて水源確保井戸事業担当に昇

任し、その職を二年間務めました。それからマルワリード用水路担当を経て、様々な建設工事プログラムで働きました。

そして上層部の決断でマルワリード用水路用重機の管理・報告という重職に任命され、二年間務めました。

現在は用水路現場で働く日雇い作業員たちの一つのグループの監督業を担っています。作業員たちの主な職務は、水路用蛇籠作りや水路建設などです。

私はこれまでの十数年間日本人と一緒に働いて来ました。ドクターサーブ・ナカムラは、長きにわたりアフガニスタンで真に困っている人々を助けておられます。また多くの方が日本から働きに来てくれました。彼らはアフガニスタンの慣習や宗教についてあれこれ言わず、私たち現地職員や地域住民と何の隔たりもなく接していました。そのような彼らを見ると心から共に働いてくれていることを実感します。皆様にご感謝しています。

私たちの文化や宗教を尊重

前述の期間、私はPMSジャパンで心から楽しく働きました。PMSジャパンで働くことは私にとって本当に喜びです。日本

人スタッフは礼節を持った人たちです。彼らは私たちの宗教や文化を尊重してくれました。彼らは私たちと大変に友好的な関係を維持しています。日本人スタッフと現地スタッフとの間には何の区別もなく、皆同じ権利を与えられています。私は日本人スタッフの、個人としての、またプロフェッショナルとしての資質に好印象を持ち、彼らと一緒に働くことを心から楽しいと感じています。日本人スタッフと一〇年以上を共にし、彼らが誠意と正直さをもってアフ



ザミールグル現場監督

ガン人を助けていることが実によくわかりました。

ドクターサーブ・ナカムラは、三〇年以上アフガン人のために働いておられます。ご自身の人生を費やしてアフガニスタンの困っている人々を助けてくれました。中村先生をはじめ先生のもので働くチームの皆や日本人のことは、アフガン人一人ひとりの心に深く刻まれています。PMSジャパンの地元スタッフだけでなく、全てのア

結核対策プログラムから 検査技師としてスタート

PMS職員／検査技師
サイドマスード

氏名…サイドマスード

父の氏名…サイドダウード

住所…ダラエヌール

職業…検査技師

親愛なる皆様、

この度は私の仕事についてお話ししたいと思います。

私は、二〇〇八年にNGOのBRAC（バングラデシユ農村向上委員会）から検査技師として結核対策プログラムでPMS

フガン人がPMSジャパンの奉仕活動や援助に感謝しています。これまでアフガニスタンにやって来たあらゆる財団や援助機関の中でもPMSジャパンはお手本であり、日本人は真心からアフガン人を助けていることは事実が証明しています。

これからもドクターサーブ、PMSジャパン、ドクターサーブのもとで働くチーム全員の更なる成功を祈っています。

感謝の気持ちを込めて。

のダラエヌール診療所に派遣されました。その時、PMS診療所には検査技師がいませんでした。

患者数が大変多かったため、結核診断のための検査技師が必要とされてきました。そこで、BRACとPMSが結核治療を本格化するため検査室を拡張しました。私の給与はBRACによって支払われていましたが、二〇一〇年に基金が終了してしまいました。

その後、PMSは結核対策プログラムを継続し、現在に至るまで私はPMS診療所の検査技師として誠実に仕事を遂行しています。

また結核診断検査技師としての特殊な任務に加え、私は通常の検査業務や外来患者の受付業務などを行う同僚を手伝っています。



ダラエヌール診療所検査室のサイドマスード技師

私は常に自分の職務を正直に遂行し、患者には親切に接してきました。また、結核対策プログラムとPMS診療所の規律を守り、尊重し、実践しています。そして私は大変な時に我々アフガニスタン人を助けて下さった日本の人々と日本の国に心から感謝しています。

私は必要とされる限り、故国の人々のために奉仕し続けたいと思っています。

繰り返しになりますが、日本の人々と日本の国の無私無欲なる奉仕活動と援助に対して感謝申し上げます。

敬具

ワーカー通信

七年ぶりのジャララバード

ペシャワール会事務局・現地連絡員

鈴木祐治

およそ七年ぶりにジャララバード事務所を訪れ、初めて見る顔から懐かしい顔まで、皆快く出迎えてくれたが、恥ずかしながら名前を思い出すことが出来ない職員もあり、申し訳なく思った。

事務所の敷地内にはガソリンと軽油の給油所が設けられており、毎朝の給油の際には不正防止も含め、給油の担当者と共にドライバーと会計職員の三人が必ず立ち会い、相互に確認を行い供給の記録をつけていた。

主に車や発電機、現場機材の修理や整備を行うワークショップでは、水門で使用される堰板の木材や鉄板の加工から、設計図一つで金属製の水車までも作成してしまう熟達したメカニック達が黙々と地道な作業を続けていた。

事務所の裏手には用水路現場のコンクリ

ート工事で使われる鉄筋や、蛇籠を編むための亜鉛メッキワイヤーなど、その他様々な資機材が管理されており、それを現場へ輸送するために一つ一つ重さを量って正確に記録を付ける職員の真剣な姿も見られた。

また、その一角には小さな公園や畑もあり、コックや門衛達が中心となり、柑橘類、イチジク、アーモンドから、ニンニク、ネギ、トマト、キュウリ、ピーマン、レタスに可憐な花々まで、職員たち自ら苗木を植え、種を蒔いて育てており、収穫を迎えた野菜たちは昼食時に提供されていた。

特に生でまるごとかぶり付けて食べる長ネギは格別に甘く瑞々しくて美味しかった。

一癖も二癖もある人達

誰もが個性的で一癖も二癖もある素敵な人達だが、皆それぞれの持ち場で真剣に、そして自分たちの仕事に対して誇らしげに従事する職員たちの姿はとても印象的だった。

言葉を交わせば皆しきりに日本への感謝の言葉と、当時一緒に働いた日本人職員の名前を口にしては、元気にしているかと気に掛けてくれていた。

ペシャワール病院勤務からジャララバード

ド事務所の事務長として、彼らを束ねる立場になられたジャ医師の熱意とパワフルな仕事ぶりは特に圧巻だったが、ひとたび仕事を離れるとユーモア溢れる人柄に加え、動植物を大切にしている心優しい姿が見られた。

なつかしのペシャワール病院

ジャララバード事務所の職員の中には、二〇〇四〜二〇〇五年頃にペシャワール病院で一緒に働いた者もあり、その当時のことや共に働いていたパキスタン人、アフガン人のその後のことなどを懐かしく話した。

当時、病院の日常業務で忙しい医者、看護師、薬剤師、検査技師、事務員、電気技



ジャララバード事務所の庭の菜園で昼食用の青ネギを引っっこ抜く門衛のアマヌラーおじさん

師、庭師、掃除人、門衛、料理人、靴職人、メカニック、ドライバー等、あらゆる職種の人達が、それぞれの仕事の合間を見ては、用水路工事や農業で使用する資機材の購入に駆け回ってくれていた。

口達者で機転の利く看護師、五つの言語を用いて交渉にあたる薬剤師、交渉事に長けていた検査技師。

お調子者で我慢強さに欠けつつも心根の良い事務員、寡黙で実直な掃除人や庭師の人達。

気分屋だが、ここぞという時は無類の押し強さを発揮する白髭の運転手から、読み書きは出来ずとも車や機械の修理のみならず、エンジンのオーバーホールまで見事にこなしてしまう凄腕メカニックまで、個性豊かな人々が働いていた。

アフガニスタンの 農村復興開発大臣を迎えて

山田堰土地改良区事務局長

徳永哲也

一七九〇年に築造された福岡県朝倉市の山田堰をモデルに、中村医師が、二二〇年後の二〇一〇年二月クナル河に、取水堰

そして、そんな強者たちに対し、時に厳しく接しつつも常に影から支え束ねていたイクラムラ事務長さん。

彼らの中にはアフガニスタンでの用水路事業に対して関心を持たない人もおり、時折その心の内を明かす声も聞かれた。

しかしそれでも、それぞれの立場の違いがありながらも、各々の長所を生かして精一杯仕事に励み、自身の役割を務めていた姿は今でも強く印象に残っており、その姿から多くのことを教えられた。

ジャララバードで再会した職員もその中の一人だったが、当時の思い出話をしている中で、「ベシャワールでみんなと(宗教、国籍関係なく)過ごしたあの時間は本当に良かった」と何度も何度も口にしていた言葉がとても嬉しく思えた。

を築造されました。マルワリード用水路が完成し三、〇〇〇畝が農地によりがえって五年目の二〇一五年三月二七日から二八日、アフガニスタン・ドゥラニ農村復興開発大臣、アセイ農村復興開発大臣上級補佐官、高橋博史在アフガニスタン特命全権大使が山田堰に来訪され大きな感銘を受けました。

中村医師と山田堰の出会い

中村医師は二〇〇三年にマルワリード用水路建設に着手されましたが、取水技術の



視察団に説明をする徳永哲也氏(中央)。ドゥラニ復興開発大臣(左)、アセイ上級補佐官(右)

壁に突きました。アフガニスタンのどこでも、誰もが多少の資金と工夫でできるものを求め国内外の取水堰調査がされた中、山田堰に出会ったのです。筑後川もクナル河も規模こそ違え急流河川、水位差が極端な暴れ川という点では類似しており、一九五三年の大水害にも流出せず現存する「山田堰」を何回も訪れ、「傾斜堰床式石張堰」方式こそクナル河の取水堰と確信されたそうです。

アフガニスタンの農民と江戸時代の

朝倉の農民は境遇が一緒

突堤式山田堰は一六六三年に築造されま

したが、現在の山田堰が築造されたのは一七九〇年です。堀川用水路に一生をささげた庄屋古賀百工ひゃくこうにより築造されました。一五歳以上の成人男子延べ六二万人、六四万人が豊かな実りを夢みて、水量が多く、流れるも速い九州一の大河での難工事に身を投じ、総面積二五、三七〇㎡の「傾斜堰床式石張堰」が誕生し、水田面積も四八八畝に拡大しました。

中村医師が計画する「緑の大地計画」も大詰めにさしかかり、クナール河九か所に取水堰を築造し、沙漠の原野一六、五〇〇畝が農地によりがえり六五万人の農民が帰農するまでに復興しつつあることは驚異というほかありません。干ばつに苦しみ飢餓を克服するため、大河に挑む農民の勇気と苦闘がもたらしたものと思います、中村医師はアフガニスタンの古賀百工なのです。また、大河クナール河に築造されたマル

ワリード・カシコート連続堰の姿を見るとその規模と設計は素晴らしく、「中村方式」と命名され後世に継承されることを確信しました。

**三連水車モデルの揚水車
マルワリード用水路で稼働**

一六六三年山田堰が築造されて一二六年後の一七八九年、高台の荒野に揚水するた

めに朝倉の三連水車は造られました。
二〇一三年一二月、朝倉の三連水車をモデルに揚水車一号直径四・六m揚水量一日一、五〇〇t、二号機直径五・五m揚水量一日一、二〇〇tが稼働し一日合計二、七〇〇tの水をくみ上げ、マルワリード用水路周辺の高台の畑地五二畝を潤すことが出来るようになりました。ここにも、朝倉の歴史的農業施設が活躍しています。

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む
中村哲 用水路建設事業の7年をつづった感動の記録 【5刷】1800円

辺境で診る 辺境から見る 【3刷】1800円

医者 井戸を掘る 【12刷】1800円

医は国境を越えて 【6刷】2000円

ダラエヌールへの道 【5刷】2000円

ペシャワールにて 【8刷】1800円

アフガン 高橋修・編著
農業支援奮闘記

農業計画6年余の失敗と成功を記した貴重な記録 2500円

聖愚者の物語 大策甲斐の物語 1800円



石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24 電話092(714)4838

人は愛するに足り、
真心は信ずるに足る

アフガンとの約束
中村哲／澤地久枝(聞き手) 2000円

岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 電話03(5210)4000
価格はすべて本体価格(税別)です

**「中村方式」をアフガニスタン全土で
取組みを**

農業はアフガニスタンの基幹産業であり、経済的自立に向け長年の戦乱で荒廃した農村の復興が急務となっているなかで、アフガニスタン政府は中村医師の治水灌漑事業の成功に強い関心を持ち、今回外務省の招待で視察に来訪されました。

視察二日目の二八日には「日本水利施設をアフガニスタンへ応用することの提案」が中村医師よりプレゼンされ、大臣も熱心に耳を傾け頷かれていたのが印象的でした。

地道な「ペシャワール会」の活動がアフガニスタン政府を動かしたといっても過言ではありません。大臣も国策として取組む決意を述べられました。一日も早いアフガニスタン国の復興を心から願っています。

▼寄付をしてくださる皆さまへ▼

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。
お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますようお願いいたします。

▼事務局移転のお知らせ▼

*五月に移転しました。
新住所…
〒八〇〇〇〇三 福岡市中央区警固一
一七 ハイツみかげ八〇三号
(電話・FAXは変わりません)

●事務局便り

*三月二十七日、二十八日に、アフガニスタンの農業復興開発大臣ドゥラニ氏が、福岡県朝倉市の山田堰を来訪された。外務省による招待で各地訪問後、山田堰見学はアフガン政府のたつての希望である。山田堰が、PMSの灌漑方式の原点であることを、知ってのことである。中村哲医師と山田堰土地改良区事務局長の徳永哲也氏が案内をし、事務局の澤田裕子が通訳した。アフガニスタンは、NATO軍の撤退と米軍の撤退準備の中で、揺れている。外国軍撤退後を見据えたとき、軍関係の雇用が減少するなかで、戦乱で荒廃し干ばつ下にあるアフガニスタンの将来をどうするのか。繰り返し述べたことだが、アフガニスタンは本来豊かな農業国である。人口の八割が農民で一割が遊牧民、これといった工業は無い。であれば、干ばつ以前には九三%の穀物自給率があったという農業を復興させるしかない。アフガニスタン政府がPMSのこれまでの治水事業の成果に注目したのは、自然なことといえる。

中村医師(PMS)は、これまで一NGOに可能なこととして、アフガニスタン東部に灌漑事業による農業復興モデル地区を作ることを目標にしてきた。それをアフガニスタン全土に拡大することは、一NGOの力を超えた国家的な仕事のレベルで、JICAとの共同事業もそれを踏まえてのことである。このたびのPMS方式に対するアフガン政府と日本政府の認識と評価によって、アフガニスタン全土での将来的な展開が、現実的な視野に入ってきたと言えるかも知れない。

*ご存知のように、四年前からJICA(日本

国際協力機構)との共同事業が開始されています。それに伴い、PMSの独自の事業と共に、現地の会計を含めた事務作業の量が増大し専門的な質のサポートも要求されるようになりました。そのために日本側の専従職員も4人に増員しました。日本側維持費が増大しますが、現地事業を支えるためとご理解頂ければ幸いです。*本文にもありますように、会長が後藤哲也から村上優に代わりました。後藤元会長は、名誉会長として引き続き現地の活動を支える所存です。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

◎村から

自分なりに何かの役に立てればと思いつつ、毎回事務局を訪れるのですが、入口の靴の多さに驚き、熟達した皆さんの仕事の動きを見て気後れることが度々です。作業の内容も発足した当時の苦勞の跡を残しながら、支援活動のための作業から生み出されたであろう多くの智慧がいかされているのは驚くばかりです。それだけに毎回わかり易い作業をしているにもかかわらず、自分の下手さ加減を思い知らされます。今まで蓄積されてきた作業の要点を事務局の皆さんから教えていただきながら、支援して下さる会員の皆さんにご理解をいただけるように、急がず、楽しく、確実に支援活動のために、自分なりにがんばりたいと思うばかりです。(TK)

■未使用の切手、書き損じハガキ(官製ハガキ・年賀ハガキ)をお送り下さい

引き出しの中などに眠っているものをお送りいただければ幸いです。会報発送等に使用させていただき大変助かっております。なお、外国の切手は取り扱っておりません。

会 則

- ①本会の名称をベシャワール会とする。
- ②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。
- ③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。
- ④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。
- ⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。
- ⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。
- ⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。
- ⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。
- ⑨本会の事務局をFARAHOUSE(〒八二〇〇〇二三 福岡市中央区警固二一―一七 ハイツみかげ八〇三号 Ⅱ〇九二―七三―二三七)内におく。